

地域で継承！八岳地区の「わさびの郷」づくり」



学校、ボーイスカウトなどの体験学習受け入れの様子、休田わさび田での収穫体験も準備中

地域の概要

伊豆半島の中央に位置する八岳地区は、天城山の森林に育まれた豊かな水資源を活かし、わさび栽培が盛んに行われてきた地域である。地域内には、大規模なわさび田の団地があり、わさび農家やわさび商品の加工所、直売店など、わさび産業を生業とする多くの人々が住んでいる。また、集落内にもわさび田が点在しており、日常生活の中に溶け込んだ風景となっている。



天城山の豊富な水資源を活かした「畳石式」

景観形成のポイント

わさび田の美しい景観や豊かな生態系、巧みな栽培技術は「静岡水わさびの伝統栽培」として世界農業遺産に認定された。八岳地区では、伝統的な畳石式栽培方法を守るため、生産者が主体となりながら地域住民もその一役を担っている。また、地元の人が守り続けている水神社と宮沢（わさび田）もあり、地元にも愛されながら、その佇まいを継承している。



地元住民が守り続ける水神社の宮沢

景観形成の活動

平成 28 年に「八岳地域づくり協議会」を設立し、協議会の活動として郷土の誇りである「わさびの郷」の保全と活用を掲げた。まずは生産を第一に考えた「生産者に配慮した周遊ルートの設定」のほか「わさび田観光マップの作成」、「わさび田ガイドモニターツアー」、「地元の小学生を対象にした次世代への継承活動」などを実施し、景観保全と新たな活用に向けて活動している。



次世代への継承活動、おいしく楽しく学習